

令和元年度市政懇談会（農業分野）会議録

- 期 日：10月24日（木）
- 場 所：市役所西有家庁舎
- 参加者：16人

本市の基幹産業である農業に関係する女性の農業士や農業委員、若手農業従事者などに参加していただき、女性の視点から担い手や後継者対策の取り組み、今後の農業などについて懇談しました。

以下、主な懇談内容。

農業従事者の担い手について

【参加者】

・島原半島は後継者が多く、南島原市内もすごく多い。そういったことはうれしいことであるが、そういう子どもたちが自分の生まれ育った地域をどれだけ愛していて、地域を発展させようという気持ちをどれだけ持っているのかと思う。地元愛を育む方策があればと思う。それと農家に来るお嫁さんの意識改革。いろんなところで頑張っているが、まだ足りないのかなと思う。

・確かに子どもの意識も大事であるし、お嫁さんの覚悟も必要だと思う。また、受け入れる親の方も暖かい目で見上げてあげることが大事である。特にお嫁さんにとっては慣れない仕事であるし、農家育ちのお嫁さんだけではないので、気配りや配慮など親の意識改革が必要。親子の間でしっかり農業の仕方とか経営に関してや経営移譲するときはどうするかなど、お互いよく話し合うことが大事だと思う。

・農業委員をしていて、後継者の婚活が一番必要だと感じている。市内の方は働き者でいい人ばかりだが、結婚になるとうまくたどりつけない。お嫁さんが他地域から来れば人口も増えるので、そこに力を入れたいが、どこに頼ってうまく回していくかということが一番の悩みである。自分も農家に嫁いで、当時は子育てや仕事など必死で毎日を暮らしていた。子どもも成長してきて今は、主人としっかり話ができる余裕が出てきた。子育ての悩みは、悩みが何なのか分からない時期なので、横のつながりや縦の交流を持てば、自然と解決できていく。そういった場があればいいと思う。

・結婚が難しい一番の根本は自信が無いことかなと思う。魅力がある人は自信がある人だったり、自分を持っていたりする人だと思う。自信が無い人には魅力が出てこない。だから、子どもの頃から世界は広いということ、いろんな考え方や価値観があって、あなたはそれでいいと認めるという環境が必要である。いろんな人間がいることを知って、固定観念を植え付けないための取り組みが必要ではないか。

女性農業者の会について

【参加者】

・以前は、パワフルミセスという若い女性の集まりの会があり、そこで意識の改革などができていた。そういった集まりがすごく減って、今の若い人たちはインターネットなどを活用して、行動力もある。でも、いかにいろんな人を巻き込んでいくかというリーダーを作っていくかといけない。そこの支援があればありがたい。

・以前、若い農業者の集まり、若妻会というものがあつた。右も左も分からない年代のときに、そういう会の案内通知が来ることで、家族も行っておいでと送り出してくれた。今、そういう会があると若い人たちも話ができるのではないか。現在は、SNSなどで情報交換はしているが、実際に会って話をすることで問題解決や自信につながると思うので、そういう会があればいいと思う。

【市】

・実際に会っていろんな話をするのは、SNSとは違う。いろんな機会というのは以前に比べれば減ってきていると感じる。確かに、そういう機会を作るのは大事である。

【参加者】

・昔は、農家に嫁いだ嫁は家事をするのは当たり前で、さらに畑に出て畑の仕事をするのが求められていた。今は、農業のかたちがすごく多様化していて加工販売をしたり、農家民泊をしたり、自分で値段を付けて農産物を直売所で販売したりなど、以前に比べるといろんな形態の経営がある。多様化する農業の中でどれを選択していくか。そして家族で一つの選択をするのもいいし、家族の中でも一人ひとりが経営の主導権を持つという形があることなどを知ってもらえれば、いろんな独自の楽しみ方が出てくる。

・以前は、年に何度か集まりがあつて、話をしてストレスを発散する。暗黙の了解ができていて、そこで話したことは家には持ち帰らない。そこで元気をもらって帰って、次の日からまた頑張つて仕事できた。そういう会を復活させるのも一つの方法で、そのためには仕掛けが必要になる。そういう活動のグループに対して活動補助金を出すなどの支援があれば活動しやすくなる。そこには、先輩もいて同年代もいて、自然といい知恵をもらったりすることができる。

・参加することでいろいろな立場の人の話を聞いて、自分だけではなくみんな悩みを持っているということを知り安心できた。参加して元気になって、お母さんが家庭の中で元気だったら家族みんなが元気になる。そしたら全てがうまくいくような気がする。自分の悩みも人の悩みも一緒に抱えることで、元気を与えたり、もらえたりする。

【参加者】

・幸せって何かと考えたときに、自己肯定感を持てることが幸せなのかなと思う。その自己肯定感を育むためには、いろんな所に話を聞きに行くなどの学ぶ機会が必要だが、何を目指して何に向かうのかというものを市で統一できたらいいと思う。いろんないいことをたくさんやっているが、統一感が感じられないので将来のビジョンなどを示して取り組み

をしたらいいのではないかと思う。

- ・農業でも何でも根本は人だから、人が幸せであれば産業は伸びていくと思う。
- ・今日は農業分野で集まっているが、今はそういう時代ではない。商工会でもそうだろうし、いろんな人が共に歩いていかないと成り立っていかないとと思う。UターンとかIターンがあるが、まず地元にいる人を根本に置いて考えるべきである。私も市外から嫁いできて、南島原のいいところがたくさんあることを感じている。外から来た人も受け入れられるようなアピールの仕方などをみんなで話し合っていくべきだと思う。
- ・先ほどから自己肯定感が大事という話があって、私もそうだと思う。テレビで森の中の保育園の映像があって、園児に自分と人は違うということを感じながら身をもって感じるように指導しているということだった。こんな小さい子にと思ったが、それを自分に当てはめてみると、自分と夫、自分と子どもなどいろいろな相手があって、それを受け入れたら気が楽になってすごく対人関係が良好になった。それは、自己肯定感と一緒に、すごく大事なのではないかと思う。

新規就農者への支援について

【参加者】

・以前は会社に勤めていたが、今年1月から新規就農した。南島原市で何をしようかと考えたときに農業しかないのではないかと考えた。まず、農業を始めるにはどうしたらいいか新規就農センターに相談した。1年間、地元のアスパラ農家での研修期間を経て、今、農業をしている。勤めていたときは時間に追われて、子どもに対しても時間の余裕が取れなかったが、今は子どもの面倒や交流などの時間に余裕ができてきて、健康的な毎日で楽しくてしょうがない。子育てのお母さんにはぜひ農業をやってほしいと思うが、農業を始めるのに費用面の壁がある。新規就農で助成をいただいているが、それだけではどうしても足りない。今は夫に生活を支えてもらっている状況である。そのハードルが低くなったら女性一人でも農業が始められると思う。楽しく農業している私を見て、子どもにも変化があり、自分も農学部に進んでみようかなと言っている。農業といってもいろんな分野があるので、農業を子どもの職業の選択肢の中に入れることが大切だと思う。農業のイメージがあまり良くないところがあるが、農家の方が農業のいいところを外に発信していけば、就農者が増えていくのではないか。今からの農業は男性だけのものではない。女性が頑張った分だけ対価があれば、農業は楽しいし、やりがいがある職業だと思う。

【市】

・話を聞いていると、元気なお母さんの気持ちや表情が子どもにもいい影響を与えていると感じる。

【参加者】

・夫婦で農業を始めて10年になる。新規就農の補助事業を活用したが、農業を始めるには実際にすごくお金がかかる。私たち夫婦はどちらも会社員だったがそれを辞めて、貯金

も家もない状態から始めた。当時は、地域の人からすればヨソモノが来たという感じだった。代々農家のところは、家もあり、トラクターもあり、畑もある。支援してくれる両親がいる。私たちからすれば、その環境は恵まれていると思うが、本人はそれに気付いていない。経験したから言えることだが、農業を始めるにあたって今の補助金額では少ないと思う。これまで地域の方に農機具を借りたりして助けてもらってきて、今は恵まれている状況になった。今後、後継者でも親と別居する人も出てくると思うが、そういう人が農業を続けるのであれば、市から補助を出すとかが必要だと思う。

【市】

・こういう生の声を聞いてありがたい。市としてどこまでできるか分からないが、できる限りやっていきたいと思う。

新規就農の要件緩和について

【参加者】

・今年の6月から新規就農している。女性が新規就農する場合に壁が高いから農業委員の女性枠を増やしてほしいと思う。私が苦労したのは、資金面と農地が全然なかったのが農地を取得するのにすごく大変だった。農業者と認められるために下限面積というものがある。各町で違うみたいだが、加津佐町だと5反を持っていないと農業者として認められない、農地も借りられないということだった。女性一人が5反の農地を借りて利用していくのはとても大変。女性農業委員が増えると女性農業者が増えるためのハードルを下げることにつながるのではないかと思う。農業は男性社会というのがあるので、女性目線の意見を反映することが必要だと思う。女性の仕事の選択肢として選べるような取り組みをしてもらえればと思う。

【市】

・費用は何が一番大変か。やはり農業機械か。

【参加者】

・大きな機械などを買える状況までっていない。畑の借地代やハウスの張り替えとか肥料を入れるなどの細かいところ、畑の準備をするのに費用がかかる。農業をやろうかなと思った人が少し頑張ったらスタートできるような仕組みができれば、女性の農業者が増えるのではないかと思う。

【参加者】

・施設営農の場合、1反で路地の5反分の収入が見込めれば、経営ができるということで要件が緩和される。その基準が各地域で差があり、昔のままなので農業委員会でも下限面積の要件を下げようと検討している。今の基準は、基準としては正しいが、実際に農業を始めようとする人と基準との間にちょっとしたずれがある。

【参加者】

・そもそも基準は必要なのか。

【市】

・結局は、その状況で経営ができるかということになる。施設営農で要件は緩和されるが、実際に経営がやっていけるかということを見なければいけない。

【参加者】

・どちらの言い分も間違っていないが、そこをどう変えればスムーズに行くのかというところである。

【市】

・新規就農者については、準備要件を緩和するなどの検討をする必要がある。そうしないと新規就農者がなかなか増えていかないのかなと思う。

【参加者】

・新規就農の基準は緩和されたのか。

【市】

・下限面積は法令的に決まっていて、法令上は50アール以上となっているが、地域の実情に合わせて自治体ごとに変えることができる。加津佐町は50アール、口之津町は30アール、南有馬町は50アール、北有馬町は40アールというふうに南島原市内でも旧町ごとに決まっている。集約的農業の場合は、下限面積自体は緩和されるが、その状況で農業として生業ができるのかというところを農業委員会としては審査しないとイケない。そういったところで行き違いがあるのではないかなと思う。

後継者や新規就農者の育成について

【参加者】

・島原半島の農業士として後継者の育成や新規就農者の育成も協力していきたいと考えている。新規就農者などの情報をいただくと人的な支援もできるのではないかなと思う。個人情報とかの面があるのでその情報が取り込めない部分もある。女性が頑張ると地域は明るくなると思うので、そういった情報を共有できたらお互いに協力しながらできると思う。

【市】

・新規就農者の方が情報提供していいという希望があればできると思う。新規就農者の方は技術的な面の支援が必要だと思うので、農業士の皆さんの手助けがあれば技術面などの向上が早くなると思う。他の地域のことだが、農業士が支援をしている地域は、新規就農者が増えているという状況がある。今後、こういったサポート体制ができるか精査して進めていきたいと思う。

【市】

・今日は、頑張っている皆さんが違う環境の中で、それぞれの立場でいろんな意見を言っていた。今後もこういう機会を設けながら意見交換をしていきたい。こういった会がきっかけで皆さんのサークルができて、そこからまた広がっていけばありがたい。本日はいただいた意見を検討して、皆さんの思いに添えるように努力していきたい。